

▼中国

新たなとりくみが成功

古川 重樹(NKT)

「文化講演会を開催してみは……?」

それは今年3月、令和4年度の事業計画について話し合う山陰支部の役員会でのことである。例年開催している春と秋の「エリア探訪」のうち、春は「文化講演会」に切り替えることにしたのだ。

開催日は6月16日(木)、異論はなかった。ただ、初開催だけに講師は話題性があって旬なテーマで話してもらいたかった。そこで、今、最も関心の高い「環境」なら倉本聰さん主宰の北海道富良野自然塾の副塾長をしている林原博光さん(78)がふさわしいと思い、本人の了解を得た。

米子市内の会場はコロナ対策で定員40名だが会員の反応は思わしくなかった。心配した役員が手分けして連絡を取り合い、5月下旬でやっと25名になった。それなら「社会貢献活動の一環として考えよう」と捉え、柏井

支部長の後押しもあって、環境問題に関心の高い会員外の人たちにも参加を呼び掛けた。

講師の魅力は大きく、6月上旬には定員いっぱいとなり、断るほどだった。当日は中国民放クラブの安東善博会長がこの企画に大変興味を持たれ、わざわざ広島から参加された。

林原博光さんは鳥取県伯耆町(ほうきちょう)出身でTBSに入社し、退社後に倉本聰さんに誘われて富良野自然塾の副塾長として富良野式の「環境教育プログラム」を全国各地で展開されている。放送局出身だけに軽妙な語り口でも分かりやすい。実践経験も豊富で説得力がある。

地球温暖化がもたらす人類への一番大きな影響は「食糧問題」としたうえで、コンビニ、スーパーで売れ残った弁当やパンを、まるでゴミと同じように廃棄する映像を見せる。「廃棄大国ニッポン」の現実に唖然とさせられた。

そして最後に林原氏は、「便利さ、豊かさだけを求めてこのまま突っ走ったら地球は危ない」と訴えた。

と訴えた。

私は、文藝春秋の6月号に掲載された倉本聰さんのエッセイを思い出した。その中で倉本さんは日本人の環境意識の低さと、ひたすら便利

利さを追い求める姿に警鐘を鳴らされ、つましく暮らしてきた生活体験のある私も高齢者に奮起を促されているのだ。

今回の講演会が、今、我々が当たり前だと思っている「豊かさへの価値観」を考えるきっかけになれば、さらにその意識を行動へ繋

げていくことができれば……。

そんな思いを抱かせるメッセージ性あふれた講演内容だった。



講師の林原博光さん(北海道富良野自然塾・副塾長)